

12月24日 後期前半終了朝会でのお話

後期前半の終了に当たって、校長先生からは、お正月にちなんだお話をします。

皆さんは、「年神様」を知っていますか。

年神様とは、年の神様と書きます。

お正月に家々に新年の幸せをもたらすために、高い山から降りてくる神様のことです。

昔の人は亡くなった祖先の霊がお正月に年神様となって、子孫の幸せを見守ってくれるのだと考えていました。

そこで、たくさんの幸せを授かるために、年神様を家にお迎えしてお祝いする様々な行事が生まれました。

お正月に訪れた年神様は、その煙に乗って天に帰っていくとされていたので、その時の炎で焼いたお餅を食べると病気をしないで元気に過ごせる、書き初めを燃やすと字が上手になるなど、様々な言い伝えがあります。

お正月を迎えるに当たっては、暮れの大掃除から正月の飾りつけ、年神様へのお供え、おせち料理作りなどがあります。今も行うお家が多いと思います。皆さんもぜひ手伝ってみてくださいね。

また、年末最後の「大晦日」は、年神様を寝ないで待つ日とされていました。

そして、その日には「年越しそば」を食べます。これは、江戸時代に始まったといわれます。

細く長いそばのように長生きを願って食べるといわれていますが、もともとは金を細工する職人が仕事場に飛び散った金粉を、そば粉を練ったおだんごで集めたことから「そばは金を集める」という縁起のよい意味もあって、はじめはそばを団子状に丸めたものを食べていたということです。

1月1日、元日の朝、年の一番初めにお目見えするお日様を「初日の出」と言います。昔から、初日の出とともに年神様がやってくると言われていたことから、今から150年くらい前から「初日の出」を拝むことが盛んになりました。皆さんもぜひ、元日の朝には、東の空を見て、1年で初めてののお日様を眺めてみてくださいね。

「初詣」は新年になって初めて神社やお寺にお参りすることをいいます。

今は、例えば埼玉県では大宮の氷川神社、お隣の東京都では明治神宮など、各地の有名な神社やお寺にお詣りする人も多いですが、本来は自分たちの住んでいる地域の神様、または、その年の年神様のいる方向「恵方」に当たる神社やお寺にお参りするとよいと言われていました。皆さんもどこかの神社やお寺にお参りに行くかもしれませんね。1年の健康と幸せをぜひ祈ってきてください。

「お年玉」は、年神様にお供した餅を下ろし、子供などに分け与えたのが始まりとのこと。年神様に供えたお餅には年神様の魂が宿っており、これをいただくことで1年分の力を授かるとされていたのです。ですからお年玉は、今のようにお金ではなく、お餅だったのです。お年玉は、1年の力を授かるものです。無駄に使わず大事に、計画的に使ってくださいね。

今は技術が進んで、大概の病気は治るようになり、多くの災害から命を守ることもでき、また、ものや食べ物がいつでも手に入るようになりました。しかしかつては、今のように安心して生活を送ることは難しかったのです。ですから、病気や災害を避け、一日一日を健やかに過ごしていくために、年の初めに年神様を家を迎える行事をとおして、心から無事を祈ったのです。それがお正月にまつわるお話です。

これから13日間の長い休みに入ります。皆さん、健やかに、楽しく、新年を迎えてください。

